



\*\*\* 声は出さねば報われたい? \*\*\*

委員長 伊藤 一利

先般の4月に入っての17cm という春雪には驚きましたね。

それでも桜の開花とともに周囲は明らかに春の訪れを見せて、会員の皆さんもホッとしたりお気持ちでシーズンを迎えられたことと思います。

今年の連盟行事は、ほぼ在来行事を踏襲して別稿の通り予定されておりますが、相変わらずコートの手配の困難性から、大会予備日の確保が出来ておりません。今から好天を祈る様な思いです。

先般私は三重県に誕生した「四日市ドーム」を見学する機会に恵まれました。

この施設は、市政100周年記念事業として建設され、総工費100億、観客席4700席を擁し、各種のスポーツやイベントに利用され、テニスコートは12面で、縦に2面ずつ6列並んでおり、後ろのコートのボールが飛んでこないかを見ておりましたら、天井からスルスルとバックネットが降りてくる工夫等、涎の出そうな施設であり、当日も三重県のシニアテニス仲間7~80人が如何にも楽しそうに集まっておりました。

三重県にはこのドームのほかにも鈴鹿サーキットの21面のコートのほか、7~8面のコートが各地に散在しており、まことに羨ましい環境があります。

各自治体それぞれの施策の異なり、特色は当然としても、政令都市を標榜する当仙台市のコート事情(スポーツ施設全般に言えることではないかと思いますが)を改めて考えさせられたことでした。

先般地元紙の企画に、現在泉総合運動場横に建設され様としている「仙台ドーム」内容に極めて批判的な記事が掲載されました。確かに建設計画の内容については、私どもにも疑問は多くありますが、それだけでなく絶対数の不足している公営屋外コートの不足に加え、県内数万とも思えるテニス愛好者の「室内コート」への渴望は、全く取り上げられることがありません。

掲載紙によれば自治体側の説明では、「ドーム」の建設についての請願、陳情は一切なかったということですから、その中での推進は自治体側もご苦労だと思いますが、「欲しければ欲しい」と、私共も可能な限りの主張と行動を続けることも必要と思うのですが残念なことに当連盟の力だけでは説得力が十分だとは申せませんので、それこそ県テニス協会のお偉方あたりに音頭を取ってもらって、管下諸団体の力を結集して、県内テニス愛好者のために一肌脱いでもらえることでも出来れば有り難いと思うのですが.....。

\*\*\*\*\*

\*\*\* 目 次 \*\*\*

★★ 生涯現役テニスライフ ★★

和田 忠彦

声は出さねば報われたい?	委員長 伊藤 一利	1
生涯現役テニスライフ	和田 忠彦	1
ハワイにて「SHALL WE テニス?」	浅野 隆郎	3
平成9年度決算書および平成10年度予算書		4
「鉛に喰(シ)ーズ」 スポーツ・ドクター 嶋田 鼎 会員 に聞く		5
「セーフ」と言ったら、片側で紙巻	高橋 龍夫	6
JTA NEWS を読んで		7
平成10年度行事予定表		8
ナルホド なるほど まで		8

1. 何故私が原稿を?

昨年4月に宮城県壮年テニス連盟に加入させていただき、早1年が経過しようとしています。加入と同時にいただいた「会報23号」を頼りに連盟の年間行事に参加していれば、そのうちに会の様子や会員の方々とも親しくなるであろうと、気楽に各大会に参加させていただきました。

あれは「対女子連定期戦」の時だったか、それともその前の「混合ダブルス大会」の時でしたか、今は定かではありませんが、中村副委員長さんから次回「会報24号」の原稿依頼を受けたのは、唐突で

もあり正直驚きでした。その時は「後日改めてまた」ということでしたので、「ハー」と曖昧な返事で何時ともなく忘れていたのですが、先日、「中村ですが、前回お願いをしていた会報の原稿頼みます。内容はおまかせします。4月発行の会報ですのでよろしく！」と、有無を云わせぬ要領の良さに、「副委員長担当ともなれば、こうでなければなー。」と、内心感心もしながらつついとお引き受けする羽目になりましたが、新入会員のために、わざわざ貴重な会報のスペースを与えて下さったのには、それなりの意図があってのことだろうと推察し、前向きに受け止めさせていただくことに致しました。「内容はおまかせ」ということでしたので、私が、当壮年テニス連盟にお世話になるようになったこの一年間を振り返りながら、自分のテニス観など思いつくまま書かせていただくことにしました。

## 2. 案ずるより生むがやすし

'96年3月、40年間の現役時代健康を大きく損なうこともなく定年を迎えることが出来ました。それは、生涯スポーツとして続けてきたテニスに因るところが大きいと思っています。利府町をついの地と定め、同年4月転居してきましたが、新居の整備や何やかやで、すぐにでもテニスをしたい気持ちをじっと堪え、やっと一段落し、当町テニス協会とコンタクトがとれ、お世話になれるようになったのは、その年も10月になってからでした。

現職時代と異なり、週の半分はコートに立つことの出来るテニス三昧の日々で、年代、性別、職業の異なる多くの仲間との出会いは、テニスの出来なかった半年間の身体的ブランクをあっという間に解消してくれました。また、コートで顔を会わず常連は、テニスを楽しむスポーツマンだけに人間的にもすばらしく、精神的にも沢山の潤いを与えていただき感謝の日々を過ごして来ました。昨年3月末に利府町テニス協会の会澤夫人から「宮城県壮年テニス連盟」のことを初めて紹介されました。もちろん即入会の手続きをお願いしました。しかし、会のみなさんどんな方たちなのか一抹の不安もあり、5月のウィークデイ交歓会に恐る恐る顔を出してみました。やっぱり「案ずるより生むがやすし」でした。諸先輩の皆さんから暖かく仲間に入れていただき、心地よい汗を流すことが出来たのです。

利府町コートでの私は、戸籍年齢番付では上位の様でしたが、交歓会の皆さんの顔ぶれを拝見した限り、私の番付はどうやら下位に位置づけられそうです。これまた、私には大いに刺激となりました。

## 3. 私の'97シーズン

さて、私の'97年度中の活動で印象に残るものをピックアップしてみました。

○4月、泉テニス協会春季会長杯ダブルス大会男子Dシニア45才以上の部で準優勝。優勝リーグ戦での一敗は、相手ペアの技量もさることながら、我が方の機能年齢(身体的機能の年齢)が、相手ペアより老化しておりスタミナ切れが敗因でした。

○6月、壮年テニス連盟主催「年齢別ダブルス大会50才の部」で準優勝。決勝戦での敗因は、4:4になった時、勝ちを急いだ私が、チャンスのスマッシュを二本ミスったこと。そして、4:5でレシーブに回った時、精神的に劣勢となりここ一番の粘りが発揮出来なかった点が指摘できます。

○8月、壮年テニス連盟主催「技量別ダブルス大会Bクラス」で3位。この時は、ブロック予選での一敗だけでしたが、女子Dペアにストレート勝ちした後の気の緩みと、老練な対戦相手男子Dペアに対して勝ち急ぎをし、攻めが単調となり自滅したことが悔やまれます。

○9月、「コープ杯テニス大会ミックスダブルストーナメント」では2回戦で敗退しました。パートナーのM夫人が、若い相手ペアの強打に押されたこと、相手ペアの男子がサウスポーであったことから、私がチャンスをつくる配球が出来なかったことが敗因でした。

○9月、泉テニス協会主催「市民テニストーナメント混合D」では、初戦完敗でした。この時は思いもかけぬ第一シードにエントリーされており、3回戦目が初戦でした。2戦2勝と調子を上げて勝ち上がってきた若い対戦相手の強打に対して、私は、不用意にも無謀なネットダッシュを繰り返して自滅をしてしまいました。じっくり腰を据えラリー合戦に持ち込んでいたら、勝機が掴めたかもと反省させられました。そんな訳で、この試合ではパートナーのH夫人へのカバーが出来なかったことを申し訳なく思っています。

○10月、壮年テニス連盟主催「混合ダブルス大会Cクラス」で優勝。パートナーのG夫人の要望もあり、Cクラスにエントリーしたのですが、試合終了後、G夫人の力量を知っている人でしょうか、「G夫人とならもっと上のクラスに出るべきだよ。」との声が聞こえて来ました。しかし、グランドストロークの方が得意で、ネットを取るタイミングが今一つだった彼女にしてみれば、今回のCクラス優勝をバネにして、ネットプレーにも磨きをかけて、次回はBクラスへ挑戦されるものと期待をしています。

○11月、「対女子連定期戦」では、3戦して2勝1敗でした。初戦での敗因は、少々気負い過ぎて試合運びに冷静さを欠いてしまい、自らペースを崩すといった最悪のパターンでした。

○11月、「社会人テニス大会団体戦Dクラス」に利府SSTチームの一員として参加しました。5チームのリーグ戦で、我がチームは2勝1敗1分の成績を収めました。私は、ダブルスで2戦し、1勝1敗、シングルスで2勝といったまずまずの結果を出しました。50代後半からシングルス公式戦にはほとんどご無沙汰で、練習する機会もないままに、「この年になってシングルス戦とはね。もっと年寄りを労ってよ。」とボヤキながらの出場でした。対戦相手は20~30代です。こちらが老齢と見て、闘志が沸かなかったのか、はたまた同情してくれたのか。いやいやそんなことはありません。相手の技量が当方より劣っていただけの話です。そのことは、1回戦8:4、2回戦8:2という結果でおわかりいただけだと思います。とにかくチームに貢献出来たことは事実ですので、素直に喜ぶと思います。

このように、大会に参加して一喜一憂もさることながら、私にとってさらなる収穫は、人間関係の輪が大きく広まったことです。居住地の「ママさんテニスクラブ」からコーチに頼まれたり、ピンチヒッターでしたが、10~11月にかけては、泉区のテニスクラブ「けやき」さんのコーチのお手伝いをさせていただく機会にも恵まれました。こうした体験は、私へ

の新たな課題の提供であり、活力の源泉を与えて下さったものと受け止めています。

#### 4. 生涯現役テニスライフ

'97シーズンは私にとってすばらしいシーズンでした。しかし、ここで自己満足してはいけません。何故なら、私にとって'97シーズンは、生涯現役テニスライフの第一歩を踏み出したに過ぎないからです。この一年間の体験、実践から学んだものを整理して、'98シーズンに備えなければなりません。最後に'98年度の抱負を記してまとめたいと思います。

◎「年のわりには若い」と見られるプレーができるように努めよう。そのために・・・

- \*プレーの前後にストレッチを欠かさずに行おう。
- \*ダンベル運動で筋力低下を防止しよう。
- \*プレストレッチ（筋力の伸張反射や弾性を利用した）打法をものにしよう。
- \*フットワークの基本を再確認し動きに無駄を無くそう。
- \*予測プレーを磨き、プレー中無駄な動きをせずスタミナを節約しよう。

◎「柔よく剛を制する」プレーができるように努めよう。そのために・・・

- \*面づくりを重視し、相手の力を利用しよう。
- \*スピードよりコントロールを重視して練習しよう。
- \*ソフトタッチの感覚を磨き、多彩なショットの打ち分けを心掛けよう。
- ◎「豊かな人間関係をつくる」プレーが出来るよう努めよう。そのためには・・・
- \*パートナーの性格を理解し、その気持ちを大切にしよう。
- \*仲間の個性、特性、特技を尊重し、よいものは吸収しよう。
- \*対戦相手の心理状態を読み、相手に対する気配りも忘れないようにしよう。
- \*個に応じたアドバイスが出来るようになろう。

'98シーズンは、'97シーズンより一歩前進出来るよう、気負わず自然体でまいろうと思います。どうぞよろしくお願い致します。

\*\*\*\*\*

### ★ ハワイにて『 Shall We テニス? 』 ★

浅野 隆郎

太平洋の真ん中、仙台空港から約 6200km、アメリカ西海岸から 4000km の距離に位置するのが、ハワイ諸島である。そこには、美しい青く澄んだ海、緑豊かなヤシの並木道が続くオアフ島、その州都がホノルル。仙台空港からは約 6時間半でホノルル国際空港に着く。

まぶしい太陽が、さんさんと降り注ぐハワイを訪れる日本人観光客は、毎年 200万人多くはリピータ（再訪問客）の人々。

人が、繰り返し訪れる理由は、雄大な自然に囲まれたネイバーアイランドを満喫させるものがあるからだ。ホノルルのシンボルといわれるダイヤモンドヘッドの山を左手に仰ぐ、有名なワイキキビーチには、家族連れや、若者は体中砂だらけになって、はしゃいで泳ぐ。

人生を楽しむ人々に、波の音が強くそして弱く地球のリズムを正確に刻む。

海辺の景色に、カモメが溶け込んでゆく。

ワイキキ・ビーチの賑わいを彷彿とさせた昼も、西側に太陽が大きく沈んで行く時、空は燃えたつばかり深紅色の夕焼けは壮観だ。

やがて、アカネ色も変わりながら、夕闇みが迫る。

ワイキキ浜辺のメイン・ストリートカラカウア通りは、街路灯も黄色の点灯に変えるとき、高層のホテル群、ショッピング・センター、レストランが、さらに輝いていく。

群青の空に、星が瞬きはじめる頃、テニスラケットを片手に、準備体操をかね、ジョギングで、「カピオラ公園テニスコート」に。

ここは、いつも、自由に、誰でもが、テニスプレイの公共施設だ。

さあ!! 「Shall we テニス」の始まり”ハイ! グット・イブニング(今晚は)カナダ人老夫婦の、ときめきの出会いは、先ず、あいさつから生まれた。

約 40分の1セット6ゲームは、M V T Fの練習風景

とすべて同様で楽しいひとときだ。

エキサイティングな振舞いにも

Very Good 大変よいね。

Excellent 素晴らしいね

Fantastic 最高だったね

その人の長所を見つけ、必ず愛すべきところや優れているところに、素直に感謝する。

一瞬のほほえみに、目礼でもよいと思う。

身ぶり手ぶりの、相互確認しながらテニスプレイは、市民レベルの国際交流であった。

そして、3日目の夜は、懐かしい友人のテニス仲間となっていた。

”夏深し テニスで過ごし 満ち足りり”

人生を楽しむ人々が多いハワイ滞在は、国内旅行の気分で気軽に旅立てばいい。

そう、テニスラケットをもって!!

公営コートのご案内(Public Courts)

ワイキキ周辺に3ヶ所、オアフ島全体では約40ヶ所あります。

コートの種類は、ほとんどアスファルトのハードコートです。

「パブリック・コート」の特徴は

- ① 24時間解放されて、無料である
  - ② 予約制でなく、先着順である
  - ③ 1人で、1グループの持ち時間は、45~60分である
- これは、慣例的な約束事。

◎ ダイヤモンド・ヘッドテニスセンター

コート数9面で、緑と花に囲まれて美しい。準備運動がてらジョギングで行ける。

◎ カピオラニ公園、テニスコート

コート数4面で、各ホテルから一番近いので、混んでいる。深夜、早朝は穴場。

昨年12月6日に勾当台会館にて開催されました平成9年度総会において審議可決されました平成9年度決算および平成10年度予算をお知らせ致します。本来ならば会報24号（昨年12月24日発行）にて掲載されるべき内容ではありますが紙面の都合上本号になりました不手際をお詫び申し上げます。

△ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

**\*\*\*月例会が衣替え\*\*\***

青葉山公園コートで毎年3～4回開催されておりました月例会が今年からその内容を一新して登場する予定です。青葉城跡の中に位置し、木々による自然の防風ネットに囲まれて、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉と季節の移り変わりを満喫しながら小島のさえずりの中でボールの心地よい音を聞きながらのテニスはプレーヤー冥利に尽きるとかねがね思っておられた方も多いと思われます。それにもかかわらず、月例会に参加される会員諸氏の人数が年々減少の一途にあります。クレートコートでは衣服が汚れやすい、整備不良でイレギュラーが多くプレーしにくいなどの理由もさ

ることながら、月例会の実施内容に魅力がなくなったという点も一因かと思われます。運営委員会では魅力ある行事作りを目指し、月例会の内容の改善を図ろうと努力中です。夫婦ダブルス大会や110歳ダブルス大会などを検討中です。実施内容の詳細については、その都度お知らせしてまいります。56国体軟式会場になるため全面砂入り人口芝コートになるという話もあります。愛着のある青葉山コートで今年もテニスを楽しみましょう。

本シリーズの一番手として、日本体育協会からスポーツドクターに公認されておいでになる嶋田鼎先生に、高齢者がスポーツ(テニス)を楽しむ時の留意事項などを中心にしてお話しを伺いました。

◇ 本日はお忙しいところ時間を割いていただきまして誠にありがとうございます。ご承知のように我が国も高齢者社会の仲間入りを致しました。白書によりますとその傾向はますます強くなる傾向にあり、近い将来高齢者が人口に占める割合が先進国のなかでも一番大きくなると言われております。私たちの回りを見渡して見ましても、たしかに高齢者の数が増加していることを実感いたします。

私共の連盟も高齢者のスポーツ愛好者の集まりである訳で、60才以上の方々から120名もおられ、元気にテニスを楽しんでおいでです。本日は、高齢者がテニスを楽しむとき、どのような所に留意しなければならぬか、あるいは、どうすればより楽しくテニスライフを送ることが出来るかを軸として、スポーツドクターの立場からのお話しをお聞きしたいと存じます。早速ですが先生ご自身のスポーツ暦あるいはテニス暦といったものから伺わせて下さいませんか。

◆ 旧制中学一年の時、終戦をむかえました。学制が新制に変わりました、それまで敵国のスポーツであったテニスが出来ようになりました。高校時代は軟式テニスでしたが、二年のとき長野県の国体予選で、第一シードを破り、準決勝でも「あわや」という所まで相手を追い詰めたのですが、敗れてしまい第三位ということで残念ながら国体には行けませんでした。高校までは軟式テニスでしたが、昭和二十七年に東北大学に入学してから硬式テニスを始めたわけです。

昭和三十年に東北大学から福島医大へ移って福島でテニスをやりました。福島時代では県選手権や東北選手権でダブルス優勝という成績を収めることができました。又当時、国体の出場枠が東北地区で一県の割り当てしかない時代に、山形県の独走を阻んで国体にも出場いたしました。卒業後は全日本医師テニス大会で優勝したり、準優勝したりしたことが度々ありました。

◇ 輝かしいテニス経歴をお持ちであることを拝聴いたしまして、非常に感服いたしました。ところで、先生は日本体育協会公認のスポーツドクターの資格をお持ちとおききしておりますが、そのスポーツドクターという言葉は私共にとって比較的耳新しくあまり馴染みの無い響きを持っておりますが……

◆ そうですね。実は同じような内容ではありますが、日本体育協会によって公認されているスポーツドクターと、日本医師会で公認されている健康スポーツ医といわれているものがあります。この資格を取るのに要する講習単位については両者に互換性がある

ので、片方の資格をとれば比較的容易に他方の資格も取れるということです。

救急処置、たとえば怪我をした時の応急処置などだけではなく、スポーツと疾患、例えば心筋梗塞などを持つ人がどの程度までならスポーツをすることがゆるされるのかというような問題から、喘息のような疾患ですと、適切にプログラミングされた管理下でスポーツをすることによりこれを治してゆくことが出来るというような広範囲の勉強のおさらいをすることにより、スポーツで怪我をした人の応急処置、スポーツによる障害(テニス肘など)の指導や病気等に心配をもつ人がスポーツを行う時の適切なアドバイスをしたりするということでしょうか。

◇ 大変心強くなるお話しを伺いました。私共の会員さんの中で不幸にしてテニスのプレー中に怪我をしてしまった場合とか、テニスエルボーで悩んでいる人とか、一寸した「持病」持ちだがどれくらいテニスをしてもいいのかなというような悩みをもたれたら、先生に相談すれば適切なアドバイスが受けられるということですね。「心の110番」ならず「体の110番」といったところでしょうか。因に先生のご自宅の電話番号は会員名簿に掲載してあります。さて、マスコミ等が代表して「高齢者」という言葉をはやらせている感がないでもないようですが、ご専門の立場から高齢者というものは何歳からとお考えでしょうか。

◆ これは男女差や個人差が非常にあってシャープな線引きは難しいのですが、公務員、大学教授の定年も60~65歳ですし、年金も65才から支給される訳で、まあ、60から65歳あたりからと考えてよろしいかと思えます。そういう意味からして還暦という言葉には意味があるのではないのでしょうか。

◇ 高齢者になりますと、握力や背筋力といったものが確実に衰えてくるという調査結果を都立大学で「日本人の体力標準値」で報告されておりまして、明らかな数値により「誰にでも体力の衰えがありますよ」といわれますと、いままで「わたしだけは若いよ。」などといっていられないような気がします。体力、視力、反射神経等の衰えに従って当然テニスのやり方といいますかプレースタイルも変わってきて当然でしょうが、市販されておりますテニスの教習本には「高齢者のためのテニス」というタイトルを持つものが見当たりません。山登りやスキーについてはNHKの教育番組でやっているようですが。

◆ そういう意味ではスポーツドクターのマニュアルのなかにも特別に高齢者用といったものはありませんね。今後の課題でしょうか。ただし、高齢になるにしたがい、いろいろな病状が数多く現れて来ます。例えば、高血圧、糖尿病、肝臓病、閉塞性動脈硬化症といったものから、リュウマチまで非常に広範囲にわたります。現在、当連盟でテニスを楽しんでおられる会員諸氏の中には、特別このような症状で苦しんでおられる方はおいででないでしょうか、糖尿



り前なのですが、なかには相手の判定に文句をツケたり、明らかな不満の態度を示すプレーヤーがおいでのようで残念です) いますが、外国の、とくにドイツを中心としたヨーロッパのプレーヤーは相手の判定に承諾出来ない場合には徹底的に文句を言うことが多くあります。これは、ヨーロッパのテニスコートのほとんどがレッドクレイ(日本ではアンツーカーといっているようです)であり、公式戦ではボールマーク・インスペクション(ボールのバウンド跡の査定)が許されているということにもよるのでしょう。

外国で、目の色や髪の色が違う人種と試合をするだけでもかなり緊張を強いられる上に、外国語で、それも英語ではなくいわゆる「お国言葉」で文句を付けてきます。普段は国際語でもある英語を使ってお互いに意志の疎通をはかっていること多いのですが、このような「究極」の場になりますとついドイツ人はドイツ語、イタリア人はイタリア語になってしまうのでしょう。ある一人の日本のプレーヤーがこういう場面に遭遇したとお考えください。自分が「アウト」とコールした判定にたいして相手が文句を言っているようです。相手の話している外国語は明確には理解できないのですが、身振り手振りから、どうも、「今のがアウトなら ボールの落ちた跡を私に示してくれ」と言っているようなのです。相手の主張を取り入れてボールマークを調べてみたら不幸? なことに はっきりとしたボールの跡が見つかりません。困ってしまって、仕方なしにこの日本のプレーヤーは自分の「アウト」の判定を取り消すつもりで「セーフ」と言いいながらラケットを持たない方の手を水平に広げたのです。本人はとっさに「アウト」の反意語での一つである「セーフ」という言葉を使ったのでしょう。さらに、ジェスチャー

を加えて意味がよく通じるようにしたのでしょう。あるいは 例の「アウト セーフ ヨヨイノヨイ」という歌の文句が脳裏をかすめたのかも知れませんね。国内でしたらこれで「万事落着」だったのでしょが、ここは外国です。相手は納得してくれません。何度も「セーフ」「セーフ」と繰り返しながら手を水平に振るのですがだめです。意志が通じないまま、とうとうレフェリーの登場ということになってしまったのです。折角自分の判定を覆してやったのに相手が納得してくれないのでこの日本のプレーヤーもほとほと困ったようでした。試合の後で 落ち着いた考えれば「セーフ」というのは 日本でも野球の用語であり、テニス用語ではないということぐらいは本人も解るはずなのですが、とっさの場合でもあり、普段 日本でも「セーフ」で何とか通用させていたことが裏目に出たということでしょうか。習性とは怖いものです。同じような事例で「ジャスト」(言っている本人は「アウト」のつもり?) もトラブルのもとになるようです。この「ジャスト」は 国内でもトラブルを起こしますのでご注意下さい。「おれは外国でなんかテニスしねえから今のままでいいよ!」などと言わないで、普段から適切な用語を使ってテニスを楽しみましょう。そうかと言って、外国の人すべてが正しい用語でテニスをしているようでもないようです。「アウト」とか「フォールト」よりも「ノー(英)」「ナイン(独)」「ノン(仏)」と言っているのを多く耳にします。とっさの場合 短くて使い易い言葉だということもあって、国際的に通用しているようですが これらに限ってはトラブルの原因にはなっていないようです。何かの機会があったら一寸使ってみたら如何?。勿論、日本国内の公式戦では「ノン」。



### ==== J T A NEWS を読んで ====

会員の皆さんは「ショートテニス(ミニテニス)」という言葉を知っておいででしょうか。あるいは、市内の一部の人達が市民ホールフロアの借用してプレーをしているのをご覧になる機会を持たれた方もあるかもしれません。JTA NEWSで「ショートテニスに注目!」と題して紹介されておりましたのでその概略をお知らせしましょう。  
(コート)のサイズはタテが3.4m ヨコが6.1mでちょうどバトミントンのダブルスコートの大きさであり、バトミントンコートそのまま使用出来る。使用ボールは重さ40gでサイズはテニスボールとほぼ同じ(幼児用には15gで直径8cmで少し大きめ)スポンジあるいはゴムボール。ラケットは250g以下と軽量。ネットの高さはコート中央部で80cm、サイド支柱部で85cm。そのルーツはスウェーデン。1970年に子供用テニス入門用として始められた。大人の正式なテニスボールではスピードがあり過ぎ、ジュニアやビギナー(初心者)には恐怖心が伴うためにスピードのでないスポンジボールが開発された。その後英国にわたり、ナショナルコーチングシステムに組み入れられてから急速に普及。多くのテニス強国でビギナーのテニス指導手段として効果を挙げた。日本でもJLTF(日本女子テニス連盟)が10年前に導入したが一部地域に取り入れられただけで全国的に展開するにはいたらなかった。

スウェーデンがビランデル、エドベリ、ヤリードら一流選手を生んでテニス王国になったのも、ショートテニスが大きな推進力となった。) だけに、バトミントンコートで出来るテニスと言うことだけを考えますと、狭い日本のお国事情にピッタリであり、市民ホールフロアの借用でもプレー可能であり、全くの初心者親子が一緒に気軽に楽しめたり、高齢者の方々の運動手段としては適していると思われます。しかし、テニスの普及という面を取り上げると、ヨーロッパ諸国とは若干事情が異なるような気がいたします。国定忠次ではありませんが「おれには(我が国には)てめえ(ソフトテニス)という力強い味方があったのだ」というソフトテニスが全国的にそれも小学校から大学そして実業団まで普及しております。わが連盟の会員諸氏の中にも、若いころソフトテニスの経験のある方が沢山おおいでなり、この経験を下地にして素晴らしいプレーをなさっておられます。日本テニスの大先輩方がその昔ウインブルドンやデビスカップチャレンジ戦で大活躍をなさったのもソフトテニスの技術十二分に発揮しての結果と聞いております。この「小学校から実業団までのソフトテニス」を我が国のテニス界の発展にうまく利用しない手はないでしょう。JTAの対策は如何に。

平成10年度 宮城県壮年テニス連盟年間行事表

宮城県壮年テニス連盟関連			仙台市 宮城県 東北等テニス協会関連		
月日	行事名	会場	月日	行事名	会場
4 22(水)	WEEKDAY交歓会	宮	4 11~	宮城県春季テニストーナメント	宮
5 7(木)	WEEKDAY交歓会	宮	5 24	宮城県テニスマスターズ春季大会	宮
5 16(土)	年齢別ダブルス大会	泉	5 24	市民大会(壮年ダブルス)	泉
			5 27	桑名杯レディステニス大会	宮
6 12(金)	WEEKDAY交歓会	宮	6 13~	国体県予選	宮
6 28(日)	夫婦ダブルス春季大会	青			
7 8(水)	WEEKDAY交歓会	宮	7 18~	宮城県シングルス選手権大会	宮
7 19(日)	110歳ダブルス春季大会	青	7 19,20	市民大会(壮年シングルス)	泉
8 12(水)	WEEKDAY交歓会	宮	8 1,2	県体テニス(ダブルス)	宮
8 23(日)	技量別ダブルス大会	泉	8 4~9	東北ベテランテニス選手権大会	安比
			8 15,16	県体テニス(シングルス)	宮
9 10(木)	WEEKDAY交歓会	宮	9 5,6	朝日レディス宮城県予選	宮
9 20(日)	夫婦ダブルス秋季大会	青	9 12~	宮城県テニス選手権大会	宮
9 未定	対いわきVTC親善試合		9 17,18	東北マスターズテニス大会	岩木山
			9 26	宮城県テニスマスターズ秋季大会	宮
10 8(木)	WEEKDAY交歓会	宮	10 27~	宮城県レディステニストーナメント	
10 17(土)	混合ダブルス大会	泉			
10 25(日)	110歳ダブルス秋季大会	青			
11 1(日)	対女子連定期戦	泉			
11 13(金)	WEEKDAY交歓会	宮			
12 5(土)	総会 懇親会	未定			

会場：宮=宮城野原庭球場 青=青葉山公園庭球場 泉=泉総合運動場

\*\*\*\*\*

＊ ナルホド なるほど 成礎 ＊  
会報編集子

「コール」と「アナウンス」という審判用語がある、日本ではこの使われ方が極めてあいまいである。「ポイントが終わったら、直ちにスコアをコールしなさい」、「アウトのコールは明瞭に」、「タイブレークのコールは間違えないように」などがその例で、そのほとんどが「コール」と表現されているが、「コール」という言葉の使い方が正しいのは「アウトのコールは明確に」だけで、あとはすべて「アナウンス」と表現しなければならない。

以上は、JTA NEWS Vol. 52 に掲載されている JTA ルール委員長 姫井氏の見解の一部です。

ナルホド、「コール(CALL)」という語は、呼ぶ、召集する、電話するなどという動作を表したり、鳴き声、通話、信号、合図といったことがらを表しており、「アナウンス(ANNOUNCE)」という語は、知らせる、告知するという動作を表す」と研究社の大英和辞典に載っております。確かに、「フォールト」、「アウト」、「ネット」等という判定を下すときに発生する、すなわち、合図するのが「コール」であり、「ゲームカウントは3-2です」、「タイブレーク7-5でA選手」というようにある内容を知らしめるような場合は「アナウンス」という言葉が適切であることがわかり、ガッテン、がってん、訃。

でも、ちょっと引っ掛かりますよ。

JTA公認の各種大会の要項に「本大会はトーナメ

ント方式で行います」あるいは「リーグ戦方式で行います」という表現がありますが、この「トーナメント(TOURNAMENT)」や「リーグ(LEAGUE)」という語は本来は別の事柄を意味しており、現在日本で使われているような意味合いとは違っているような気がいたしますが如何なものでしょうか。「トーナメント・ディレクター」「トーナメントの日程」「トーナメント諸規則」などの言葉に使用されている「トーナメント」なる語句は「大会」あるいは「競技会」という意味であり、「トーナメント方式=勝ち抜き戦」にはちょっと無理があるのではないのでしょうか。あるいは、長年の我が国の「和製英語」の慣習でこれはOKとするならば、「コール」もまた然り？これらに類するものとして「対戦相手がデフォット(DEFAULT)ので不戦勝だ」など どうどうと通用？しているものが見受けられます。昨今、カタカナ英語を振ったりあるいは切り継ぎをして新造語を作り出しこれを話すことが「ナウイ」とする風潮がありますがこれにテニス界から一本釘をさして待たせかけますか。そのためにも 当分の間皆さんとご一緒に《ワードウォッチング》をいたしましょうか。

\*\*\*\*\*  
編集発行 宮城県壮年テニス連盟運営委員会  
事務局  
\*\*\*\*\*